

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和3年7月19日（月）
- 2 確認箇所
瓦礫類一時保管エリアP2
- 3 確認項目
瓦礫類一時保管エリアP排水枡における全ベータ値上昇事象への対応状況

4 確認結果の概要

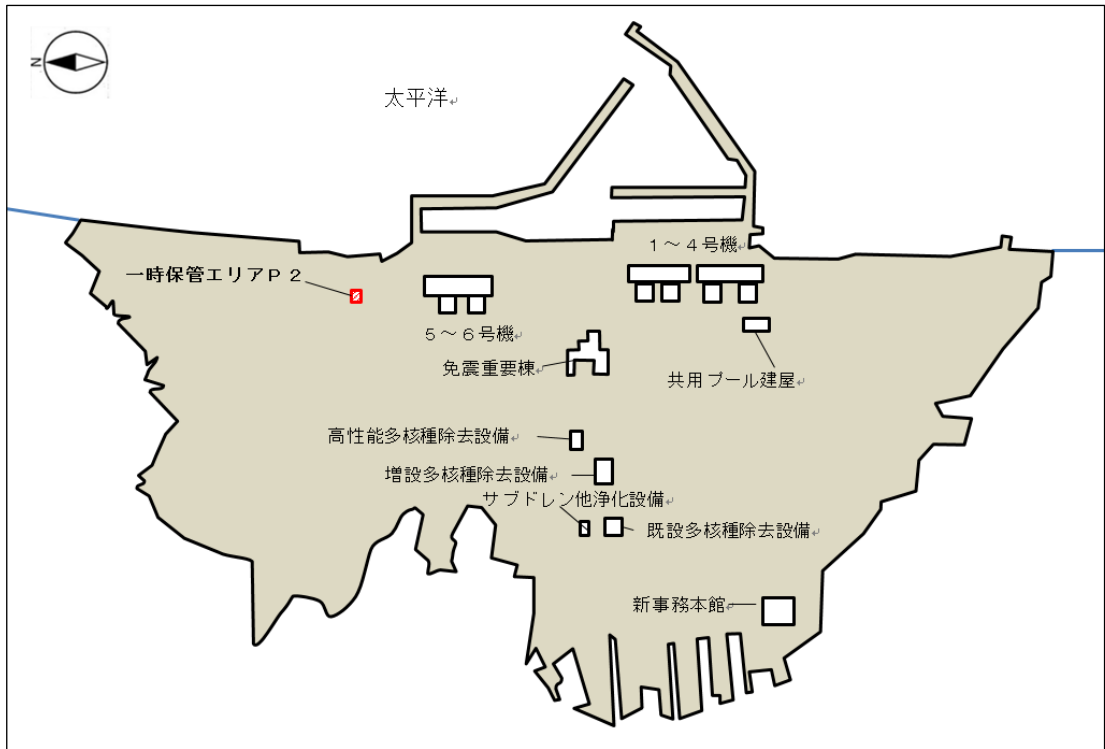
東京電力が行っている瓦礫類一時保管エリア（以下「一時保管エリア」という。）P排水枡の放射能分析において、6月29日に採取した検体の全ベータ値が上昇していることが確認された事象への対応状況を確認した。（前回確認：[令和3年7月9日](#)）（図1）

なお、上昇の原因について東京電力では、流域の一時保管エリアP2で保管している汚染土壌入りのノッチタンク周辺の地表面線量率^{※1}の状況及びノッチタンク内部の水の分析結果^{※2}などから、タンク内部の放射性物質を含む水が降雨により溢水し、排水溝に流入した可能性があるとしている。

- ・エリア南側の入口付近には放射性物質を含む雨水が流出しないようゼオライト土嚢が設置されていた。また、東京電力社員が周辺の地表面のモニタリング調査を行っていた。（写真1）
- ・汚染が確認されたノッチタンク周辺の地表面が剥ぎ取られていた。（写真2）
- ・東京電力によれば、一時保管エリアP排水枡及び排水溝への放射性物質流入抑制対策を進めていくとしている。

※1 1cm線量当量率（ガンマ）が $3\mu\text{Sv/h}$ に対して、70 μm 線量当量率（ガンマ+ベータ）が最大 $750\mu\text{Sv/h}$ 。

※2 2基のノッチタンク内部の水の全ベータ値は、それぞれ79 kBq/L、33 kBq/L。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
一時保管エリアP南側入口付近の
状況



(写真1-2)
モニタリングの実施状況



(写真 2-1)
ノッチタンク周辺の地表面の状況
(令和 3 年 7 月 9 日撮影)



(写真 2-2)
同左
(令和 3 年 7 月 19 日撮影)



(写真 2-3)
地表面の剥ぎ取り状況 (拡大)

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。